

《履修上の留意事項》この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格習得のための「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」に該当する。
前期の「精神保健福祉の理論と方法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

《担当者名》向谷地 生良 ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

わが国の精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカー実践は、入院偏重や過剰病床、多剤多量問題、身体拘束に象徴される人権問題、地域移行の困難さなど独自の課題をかかえており、「精神保健福祉の理論と方法Ⅰ」の基礎的な学びを踏まえて、これらの課題に向き合うための現場に即した地域生活支援、家族支援、チームアプローチ、ネットワーキング、ケアマネジメントなどのさまざまなアプローチを具体的な事例に即して学ぶ。

【学修目標】

- 1 精神障害者の地域移行支援、および医療機関と地域の連携に関する実践を事例に基づいて理解する。
- 2 精神障害者の地域生活の現状とこれを取り巻く社会情勢および地域相談援助における実践を事例に基づいて理解する。
- 3 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワークの実際を事例に基づいて理解する。
- 4 地域生活を支援する保健・医療・福祉などの包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開に事例に基づいて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	相談援助活動の展開－その実際と事例分析	疾病や障害に配慮した個別支援・集団支援の実際の展開と実際について学ぶ。	向谷地
2	精神保健福祉における精神障害者と家族関係	精神障害者と家族をめぐる課題と現状を法制度の変遷から学ぶ。	向谷地
3	家族支援の方法	精神保健福祉領域における家族支援の方法を先行研究や理論、実践モデルから学ぶ。	向谷地
4	事例による家族支援の方法	精神保健福祉領域における家族支援の方法を事例に基づき検討することによってソーシャルワーカーの役割に対する理解を深める。	向谷地
5	地域移行の対象と支援体制	精神障害者の理解と、地域移行に関わるソーシャルワーカーの役割や機関、法制度について学ぶ。	向谷地
6	地域移行の対象と支援体制－事例検討	地域移行の事例を、依存症の事例を中心に、流れにそって学ぶ。	森 亨（特別講師） 向谷地
7	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	精神障害者を取り巻く社会的状況を法制度の動向や市町村の事業など地域中心の流れにそって学ぶ。	向谷地
8	地域を基盤としたリハビリテーションの基本的な考え方	地域を基盤としたリハビリテーションを推進する要となる地域ネットワークとアウトリーチについて、その理念や実際の展開を学ぶ。	向谷地
9	地域を基盤としたリハビリテーションの基本的な考え方－家族会、セルフヘルプグループ	地域を基盤としたリハビリテーションを推進する上で家族や当事者、ボランティアとの連携の重要性について学ぶ。	向谷地
10	精神障害者のケアマネジメント	精神障害者のケアマネジメントの基本的内容と、展開のプロセスについて学ぶ。	向谷地
11	精神障害者のケアマネジメント－事例	精神障害者のケアマネジメントの事例をA C T、ストレングスモデルをベースに具体的に学ぶ。	向谷地
12	地域を基盤にした支援とネットワーキング	地域を基盤にした支援とネットワーキングを推進する上で必要となる支援の基本概念と地域アセスメントの手法について学ぶ。	向谷地
13	地域を基盤にした支援とネットワーキングの事例	地域を基盤にした支援とネットワーキングの具体的な展開のあり方を住民参加や地域資源の開発、町づくりの事例から学ぶ。	向谷地

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	地域生活を支援する包括的支援の意義と理念をソーシャルインクルージョンの視点から学ぶ。	向谷地
15	まとめ	本科目における学習を振り返りグループディスカッションを通じて、精神保健福祉の現状理解とソーシャルワーカーの果たすべき役割について考える。	向谷地

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

受講態度30%、課題レポート20%、試験50%により総合的に評価する。

【教科書】

最新 社会福祉士養成講座 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」中央法規

【参考書】

技法以前（医学書院）

当事者研究の研究（医学書院）

【備考】

この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」に該当し、また前期の「精神保健福祉の理論と方法Ⅰ」の履修も必要となるため、履修漏れに気を付けること。

【学修の準備】

精神保健福祉分野のフィールドワーク（学会、研究会、セミナーなどの参加）を積極的に行うことが望ましい。

予習は、次回の授業で行う学習内容について読み込み、理解できたことや疑問点などを明確にしておくこと（2時間）。

復習は、授業で取り上げた学習内容について振り返り、理解を深めること（2時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

精神保健福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

精神科病院、就労支援の現場での臨床経験に基づき、グローバルな視点から個人の自立のテーマに至るまで、精神障害者支援の実践的な知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している